

学校概要

創立 41 周年	学校長 藤城 守	副校長 岩澤 尚彦	学期 2 学期制	児童・生徒数 414 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 中川西中学校		

学校教育目標

—みんな友だち、すすんで学ぶ元気な子—
 豊かな人間関係の中で、自分らしさを大切に主体的に学ぶことができるようにします。
 「知」……人の話をよく聞き、課題解決に向け粘り強くやり遂げることができるようにします。
 「徳」……きちんとあいさつができ、友だちや目上の人を敬うことができるようにします。
 「体」……自他の身体を大切に、自ら進んで健康づくりに取り組むことができるようにします。
 「公」……すみれのまちの一員として地域社会の役に立つために行動できるようにします。
 「開」……さまざまな人とコミュニケーションをとり、文化の違いや共通点を理解できるようにします。

学校の特色

- 学区の中は住宅地ではあるが、小さな商店街、畑、多数の公園、大企業、幼稚園など、学習の材となるものも多い。
- 児童は全体的には素直で優しく、礼儀正しく、学習や生活に前向きに取り組む傾向があり、豊かな心をもっている。
- 保護者や地域の方々は学校の教育活動に理解を示し、協力的であり、日々多数の方々が支援にかかわっている。
- 児童の主体的な意欲、活動を導く、問題解決的な授業の工夫を行い、思考力、判断力を高めていく必要がある。
- 児童の体力面を一層伸ばす必要がある。
- 平成28年度から大きな施設改修、カリキュラムの見直し等が行われるため、持続可能な形を構築する必要がある。

学校経営中期取組目標

- 児童がすすんで取り組み、みんなで解決し、れいをつくして人間関係を築くことのできる学校づくりをすすめます。
- ・確かな学力の育成に向けて、特に問題解決的な学習の在り方について追求し、児童が主体的に学び、思考し、判断できるようにします。
- ・豊かな心を一層育むために、表現活動や交流活動を重視し、お互いに認め合う心や自尊感情を高め、自信をもてるようにします。
- ・児童理解に基づいた児童指導を全教職員の共通理解のもとに進め、迅速・正確・丁寧に対応します。
- ・学校運営協議会、サポーター協議会、PTA組織の三位一体型組織の関係性を整理し、児童のための実効性のある運用を構築します。
- ・施設とカリキュラムを大きく見直し、持続可能な形に再構築するとともに、検証しながら改善を加えます。

小中一貫教育の取組

中川西中学校 **ブロック** : 中川西中学校、都筑小学校、荏田小学校、中川西小学校

9年間で育てる子ども像	○つながりの中で、あいさつをしっかりとする子ども ○つながりの中で、認め合い、励まし合い、高め合う子ども ○つながりの中で、自らの課題を見つけ、解決しようとする子ども
自校の具体的取組	○本校の重点研究の研究会に中学校の教員の参加を受けたり、小学校の教員が中学校の授業を参観したりするなどの授業交流を進め、小中一貫カリキュラムの作成を推進し、共通理解を深めます。 ○生徒指導専任と児童支援専任との連携を強め、授業視察などを定期的に行い、児童生徒の問題行動の未然防止に資するようにします。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「言語活動」「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で思考力・判断力の育成を目指す。	①全学級で「学習スタンダード」と「問題解決」を意識した授業展開を図るとともに、スキルタイム、家庭学習等による基礎・基本の定着と授業改善による思考力、判断力、表現力の向上を目指す。②重点研究では、図画工作科、算数科の指導を通して、言語活動を充実させ、学び合いを重視し、思考力・表現力等児童の資質・能力を育む。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けするとともに、子どもの自尊感情を育て自他を大切にすることやよりよい生き方を創造する態度を育てる。	①ペア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を認めていく。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切にしたい児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼保小連携を1、5年を中心に展開する。
健やかな体	基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また、一校一実践運動を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動に「ダンス、縄跳び」を取り上げ、学校保健委員会を機能させ年間通じて体力の向上を図る。③養護教諭、調理員、栄養職員と連携しながら全学級で食育に関する授業を行い、給食の残量を減少させる。
安全管理	児童の危険回避能力を育てるとともに、施設の安全面、防犯面の管理を徹底し、事故等の未然防止に努める。	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付けて毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てる。②休み時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。
児童指導	全教職員が「学校のきまり」を共通理解して同じように指導すると共に、コミュニケーションを大切に、いじめの防止・早期発見に努める。	①これまでの「学校のきまり」を再度見直し、全教職員で共通理解して指導に当たる。②児童指導が発生した際には、担任と児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った後、保護者に丁寧に説明を行う。また、記録を残す。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。
保護者・地域との連携	学校運営協議会、サポーター協議会、PTA関係組織の3つの組織を三位一体としてとらえ、実効性のある運用を連携して追求していく。	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強め、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を図る。
教育環境整備	平成28年度からのプレハブ校舎解体等、大きな改修を受け、施設面での有効利用とともに、全面的な環境整備と、学校行事の見直しに着手する。	①プレハブ校舎解体と、校庭の全面改修を受け、既存の教室や校庭の活用方法について検討し、持続可能な形を構築する。(西棟2階:図書室とオープンルーム、3階:図書館とPCルーム)②図書館の環境整備と運用を一層図る。③前期に行う体育的行事に対して、後期に文化的行事を設定するとともに、宿泊体験学習などの見直しを行う。

人材育成・組織運営	主幹教諭を中心とした組織運営の改善を図るとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修を計画的に行う。	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが中心となって1回の活動を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でいつも話し合えるように各自が課題意識を高くもって臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。
-----------	--	---